

# CPhI japan 2014

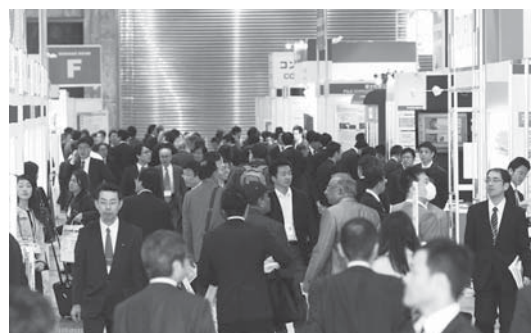
4月9～11日に開催

## 医薬品と 周辺分野の 最新情報を充実

化学工業日報社、UBMジャパンなどが主催する国際医薬品原料・中間体展「CPhI japan 2014」が4月9日から11日にかけて東京ビッグサイトで開催される。「CPhI」はConvention of Pharmaceuticals Ingredientsの略称で、医薬品原料の展示会として、1990年にドイツでスタートした。日本では2002年に初開催され、12回目となる今回は、世界約30カ国・地域から過去最高となる500社の出展と1万6000人の来場者を見込んでいる。医薬品などヘルスケアの分野はビジネスの裾野が広く、日本の成長産業として期待が大きい。こうしたことから、CPhI japan 2014はビジネス獲得や情報収集などに役立つ内容を一段と充実させる。

### 5つの展示会で構成、MEDTECとの相互入場も

CPhIは、欧州ではCPhI worldwideの名称で国を変えながら毎年開催されている。CPhI japanはそのサテライト版で、中国、インド、東南アジア、ロシア、米国、南米でも同様のサテライト版が開催されている。こうした世界的なネットワークの存在が日本での開催を国際色豊かなものにし、世



CPhI japan 2013の会場風景

界中から人、企業、情報などが集まるようになっている。

医薬品原料を中心としたサプライヤーとカスタマーである製薬企業との商談を重視したCPhI japanをはじめ、製薬業界への受託サービスを対象とした「ICSE japan」、機器・装置に関連する「P-MEC japan」、バイオ医薬品に特化した「BioPh japan」、ドラッグデリバリーシステム（DDS）と医薬品包装技術に注目した「Pharmatec japan」を同時開催し、これら5つの展示会によって専門性を高めるとともに裾野を広げているのも特徴である。

今回、UBM Canonが主催する医療機器設計・製造のためのアジア最大の展示会「MEDTEC Japan」が東京ビッグサイトで同じ期間に開催され、CPhI japanと相互入場ができる。この展示会は450社の出展と1万6000人の来場者が予定されており、CPhIと同じくヘルスケア分野の展示会であることから、双方に関心のある来場者にとってメリットが大きい。

### 創薬研究や製造など、最新動向を紹介

CPhI japanでは、様々な講演、パネルディスカッション、コンファレンス、セミナーも行われる。今回の目玉の1つは、「医薬品の品質管



図 5つの展示会から構成

理と安定供給に向けて：海外原薬メーカーに期待すること」と題したパネルディスカッション（主催は日本薬業貿易協会と日本ジェネリック製薬協会、聴講料3000円）である。医療費抑制策の一環としてジェネリック医薬品の普及が日本の課題となっているが、中国やインドなど海外の原薬サプライヤーがGMP査察で不適合となって輸入が停止するケースも発生している。パネルディスカッションでは、主催2協会、厚生労働省大臣官房審議官、医薬品医療機器総合機構、そして中国医薬保健品輸出入商会の副会長らが安定供給に向けた課題の解説や意見交換を行う。

「ビッグデータが導く新たなステージ～創薬研究と医薬品製造の効率化」と題したパネルディスカッション（無料）も注目されよう。医薬品の創薬から製造までの過程では膨大な測定データなどが蓄積されており、これらを共有して研究と製造を効率化する仕組みやシステムについて、東大、京大、理化学研究所から最前線の第一人者が討論する。

コンファレンスの目玉の1つは、「ES、iPS細胞を活用した創薬ツールの最前線」で、京都大学iPS細胞研究所、エーザイ、国立医薬品食品衛生研究所からそれぞれ講演が行われる。内容はiPS細胞を活用した神経変性疾患の研究、医薬品候補物質の安全性評価などに関わるものである。再生医療に関しては、コンファレンスとは別に、経済産業省から「再生医療の制度整備と事業展開」と題した特別講演が行われる。

CPhIでは、TLO／大学知的財産本部技術移転セミナーでアカデミアの最新研究情報を収集できるほか、バイオ医薬品、医薬品包装技術、DDS技術およびデバイスなどに関する各種セミナーやコンファレンスで専門的な情報を入手できる。

## 注目高まるヘルスケア分野

日本の化学産業は構造変化の時代を迎えている。基礎素材分野における中国の新增設ラッシュと市場成長の鈍化、拡大する中東産油国の石油化学産業、そしてシェール革命による米国の石化競争力の回復など、世界で起こっている

表 総合化学企業によるヘルスケア分野の最近の主な買収

会社名	買収相手・事業 (本社所在地)	買収年	買収額
旭化成	ゾール・メディカル(米)	2012	22億ドル
三菱ケミカルHD	クオリカプス(日本)	2013	558億円
三井化学	アコモン(スイス)	2011	非開示
	KOCソリューション(韓)	2013	非開示
	ヘレウスHDの 歯科材事業(独)	2013	543億円
	デンカ(米)	2013	非開示

(注) HDはホールディングスの略

様々な事象は、日本の化学産業に改革を突きつける。こうした中で大きな潮流になってきたのは、ヘルスケア分野に経営資源を重点投入して事業構造を変える動きであり、それを象徴するのは大手総合化学メーカーによる近年の積極的な買収戦略である。

旭化成は2012年4月、同社として過去最大規模の企業買収を実行したが、その対象は米国の医療機器メーカーだった。三井化学は眼鏡用プラスチックレンズのスイス企業と韓国企業をそれぞれ2011年、2013年に買収したほか、歯科材料事業も買収や資本出資によって強化している。医薬品国内準大手の田辺三菱製薬を傘下に持つ三菱ケミカルホールディングスは、医療用カプセル世界2位のクオリカプスを2013年に買収し、2014年4月1日にはヘルスケア事業の新会社を立ち上げた。住友化学では、グループ会社の大日本住友製薬が2009年に米国の製薬企業を26億ドルで買収し、その後も買収を繰り返している。

ヘルスケア分野では、市場規模や利益率の点で医療用医薬品の存在が大きい。世界展開できる画期的な新薬を生み出せば、それだけで年間1000億円以上の収入になることもある。しかし、新薬創出の成功確率は極めて低く、多額の研究開発投資が必要だけにリスクも大きい。このため、薬事法の規制を受けないヘルスケア領域でのビジネス展開も広がっている。

大手総合化学メーカーに限らず、準大手や中堅・中小メーカーでもヘルスケア分野の事業強化や参入への動きが活発化している。CPhIは様々な企業にとって、ビジネスチャンスを探る絶好の場となる。